
水月ノ心 レプリカドール

藍色ありす

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水月ノ心 レプリカドール

【Nコード】

N33620

【作者名】

藍色ありす

【あらすじ】

俺は姉の代わりに生きている。

姉のための人形、俺はそれ以外の価値はない。

水月それは月のレプリカ、月の分身、ニセモノの月
そして俺も月のニセモノ

「あなたはルナよ？私の可愛い娘。」

お母さんは優しく俺の髪をなでて言った

「なんで？お母さん、ルナは、姉さんは、」

そこで俺は目を覚ました。

「…またあの夢か」

あれからよく見る姉さんの夢。

「ルナ、起きなさい。」

お母さんの声が聞こえる、

「はい。お母さん。」

俺は制服を着て下へ降りた。

お母さんは俺と姉の区別がつかない、

ルナは3年前に死んだ。

あの日お母さんと喧嘩して家を飛び出した
後から姉さんが追ってきて、

「うぜえんだよ！」

俺は気づけば道路に飛び出ていて。

「陽！」

トラックが俺に近づく。

ルナが俺を突き飛ばす。

トラックが……

「陽、大丈夫？」

俺はその時のルナ笑顔が忘れられない。
ルナはその後冷たく、動かなくなった。
病院で母さんが飛んできて俺に言った。

「ルナ、よかったわ。あなたさえいれば…
あなたさえいれば私はいいの…
よかった、よかった…」

初めて俺を抱きしめて、

「あなたはルナよ？私の可愛い娘。」

俺の髪を優しくなでて、
虚ろな目で言った。

「あなたはルナよ。陽ではないの。」

俺はルナだ。

俺は髪を伸ばし、女として高校に通っている。
全てルナの代わりに。

俺はルナ、あの時陽は死んだ、
今生きてるのはルナだ。

俺はただルナの人形にしか過ぎない。

俺は月、水に映るニセモノの月

月の為のレプリカ

俺は月の模造人形だ。
レプリカドール

帰り道、水溜りに水月が浮かんでいた。
月がそこに存在するために。

「俺と一緒だ。」

ルナがここに存在するために、

俺はここで生き続ける。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3362o/>

水月ノ心 レプリカドール

2011年10月5日20時20分発行